

もの言う牧師のエッセー… 第16話

「メタンハイドレート」

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）は、2月15日より世界初となるメタンハイドレートの海底採掘を愛知県奄美半島沖で開始した。

メタンハイドレートは、都市ガスなどに使われるメタンが低温高圧状態で水分と結び付き、結晶化した氷のような物質で火を付けると結晶内のメタンが燃焼することから「燃える氷」とも呼ばれる。永久凍土の地下深くや深海の下に埋蔵が確認されており、採掘して結晶からメタンガスを取り出せば、都市ガスのほか、火力発電向け燃料として使用することが出来るという“夢のエネルギー”だ。

それが静岡県から紀伊半島沖、四国沖にかけての「南海トラフ」を中心に約100年以上分の埋蔵量が確認されているいうからスゴイ。その“夢の油”をこの度世界最高水準のボーリング技術を有する日本が、技術面、環境面、悪天候そして何と云っても採算面や困難な商業化などの大きな壁にぶつかりながら海底掘削を試みるという正に“巨大プロジェクト”の一步がついに記されたのである。この久しぶりにダイナミックで景気のいい話を聞き、今から約3000年前にダビデが歌った聖書の有名な“祝福の歌”を思い出した。

「あなたは、その年に、御恵みの冠をかぶらせ、あなたの通られた跡にはあぶらがしたたっています。」詩篇 65 篇 11 節

である。聖書と言えば「清く貧しく」みたいなイメージを想像されがちだが決してそうではない。ゴスペルのメッセージはあくまで「祝福」である。しかしその祝福に達するにはダビデの様にまず神の前にへりくだり、神を信じ従わねばならない。その結果彼は“油滴る”大きな収穫を手にしたのだ。今、日本が世界に誇る地球探部探査船「ちきゅう」より水深約1000mの海底を260m掘削中だ。がんばれニッポン！ 神を信じ祝福をゲットせよ！

2012-2-24

